

船橋市 市民公益活動公募型支援事業

平成24年度 実施事業事例集



発行：船橋市 市民生活部 市民協働課

平成25年（2013年）6月

【市民公益公募型支援事業の概要】

地域の課題解決を進めていくためには、市民や市民活動団体などの地域に根ざした市民の手による、地域のための公益活動が必要とされています。新たな行政へのニーズが高まっているなか、市民の柔軟な発想や創意工夫を活かした提案を掘り起こし、市民協働の担い手となる市民活動団体を育成し、市民と行政がともに持てる力と知恵を出し合いながら進めていくことが重要になっています。

そこで、市民の皆さんによる地域に役立つ取組みに市が必要な支援を行うといった「市民との協働によるまちづくり」があらゆる場面で展開されるよう、「船橋市市民公益活動公募型支援事業」を平成22年度に創設しました。

この制度は、市民活動団体から提案のあった事業について、その内容を審査し、公益性や社会貢献性の効果がある事業に対して、市が支援金を交付するものです。

支援金の申請は「事業立上型」「事業提案型」の2種類で、それぞれ上限額と支援率を設定しています。「事業立上型」は、市民活動団体の設立後3年未満の団体が行う公益事業で、「事業提案型」は市民活動団体が主体となって行う公益事業か、市と市民活動団体が協働で行う事業が対象となります。

| 支援金の種別 | 支援率 | 限度額 |
|---|--------------|-------|
| 事業立上型 設立から3年未満の市民活動団体が行う新規公益事業の実施に対し交付する支援金（交付は1回に限ります。） | 支援対象経費の80%以内 | 20万円 |
| 事業提案型 市が市民活動団体から提案を受けた公益活動の事業費に対し交付する支援金（同一事業による継続は原則3年度を限度とします。） ※提案内容が特に公益性の高い事業であると認められたときには、支援率を80%とします。 | 支援対象経費の50%以内 | 100万円 |

対象となる事業は、支援金の交付により成果又は効果が期待できる事業として、平成24年4月1日から平成25年3月31日の期間内に着手かつ完了し、船橋市内で行われる地域課題の具体的な解決に向けて取り組む活動です。

申込みのあった事業の選定にあたっては、公募の市民委員を含む第三者で構成される「市民活動支援審査会」において、「公益性」「効果性」「適格性」「必要性」「新規性・アイディア性」「連携性・協働性」の観点に立った評価が行われました。

【平成24年度実績】

| | 採択件数（申請件数） | 支援対象経費総額 | 支援金確定額 |
|----------|------------|-------------|------------|
| 事業立上型支援金 | 6件（6件） | 1,081,442円 | 739,701円 |
| 事業提案型支援金 | 25件（28件） | 12,421,404円 | 5,841,783円 |
| 【合計】 | 31件（34件） | 13,502,846円 | 6,581,484円 |

※事業提案型で採択された25件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【市民公益活動公募型支援事業 平成24年度実施事業一覧】

事業立上型 6件【支援率：支援対象経費の80%以内 限度額：20万円】

| No | 団体名 | 事業名称 | 頁 |
|----|----------------------|--|----|
| 1 | 市民協働推進連絡会 | 情報ネット情報発信会員のサポート | 5 |
| 2 | ふなばし木の子の森 | ふなばし木の子の森：わんぱく講座 | 6 |
| 3 | “伝えよう船橋”の会 | 船橋かるたによる、子供の健全育成を図る活動及び住みよい魅力あるまちづくり推進 | 7 |
| 4 | 船橋漁港の朝市委員会 | みんなおいでよ！船橋漁港の朝市 | 8 |
| 5 | 坪井湿地を復活する会 | 坪井のホテル復活計画 | 9 |
| 6 | 船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会 | 船橋市障害者スポーツ・レクリエーションの普及・推進 | 10 |

事業提案型 24件【支援率：支援対象経費の50%以内 限度額：100万円】

| No | 団体名 | 事業名称 | 頁 |
|----|------------------------------|---|----|
| 7 | 三番瀬カレンダー制作実行委員会 | 三番瀬カレンダー制作 | 11 |
| 8 | MあんどB | 読書の一環として子どもの人形劇講座 | 12 |
| 9 | 船橋英語連盟 | 市内在住外国人との交流を図り、市の国際親善事業の普及向上に貢献するための市民活動推進事業 | 13 |
| 10 | オアシス家族会 | 精神障害者を抱える家族に対する支援事業 | 14 |
| 11 | 特定非営利活動法人 千葉県中途失聴者・難聴者協会 | 高齢者の文字情報における講座（要約筆記付） | 15 |
| 12 | プレシャスライフ倶楽部 | 粋・生き健康生活づくりですこやか船橋！ 市民協働の健康とまちづくり事業 | 16 |
| 13 | NPO法人 うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋 | 知的障害者と家族等の権利擁護と成年後見制度の相談と支援事業 | 17 |
| 14 | NPO法人船橋ウォーキング・ソサイエティ | 各種ウォーキング講習会を通して市民のための健康増進活動推進事業 | 18 |
| 15 | 千葉 桃の会 | 世代を超えてみなで唱歌・童謡を歌おう | 19 |
| 16 | 街に花と緑の会 | 前原西2丁目と緑のまちづくり活動 | 20 |
| 17 | 市民後見センターちば・船橋 | 成年後見制度を広く船橋市民に広め、市民後見人の養成の一步とする事業 | 21 |
| 18 | フィールドミュージアム・三番瀬の会 | 「三番瀬の生きものから縄文時代の干潟の歴史を知る」 in 飛ノ台 Part2～生きもの観察会から飛ノ台周辺環境の歴史を散策する～ | 22 |
| 19 | 丸山を元気にする会 | 丸山を元気にしよう！朝市・夕市の開催&丸山ひまわり110番を探せ！！ハロウィンウォークラリーイベント開催 | 23 |
| 20 | 船橋市観光協会 ふなばし街歩きネットワーク | 船橋市における街案内ボランティア組織と活動の創出及び人材育成事業 | 24 |

| | | | |
|----|----------------------------|-----------------------------------|----|
| 21 | NGO三番瀬のラムサール条約登録を実現する会 | 親子で船橋漁港の見学と三番瀬・東京湾クルージング！ | 25 |
| 22 | 公益社団法人 船橋地域福祉・介護・医療推進機構 | 「認知症」に関するシンポジウムの開催 | 26 |
| 23 | 船橋東交通安全協会 | 交通安全を市民に普及する交通安全広報・啓発活動事業 | 27 |
| 24 | 一般社団法人 船橋交通安全協会 | 交通安全を市民に普及する交通安全及び啓発活動 | 28 |
| 25 | 船橋S Lネットワーク | いざ災害！！わが身わが命は自分でまもる | 29 |
| 26 | 自転車運転マナー推進会 | 公道走行に於ける自転車安全運転マナー安全教室開催 | 30 |
| 27 | 原爆の絵展・平和のつどい実行委員会 | 平和啓発事業 | 31 |
| 28 | 0・2歳児親子遊び「かしの木会」 | 0・2歳児親子遊び事業「とんぐり会」「ジーバー会」 | 32 |
| 29 | NPO法人 環境を考える市民の会 | 市民と育む海老川うるおい創生活動 | 33 |
| 30 | NPO法人 囲碁文化継承の会 | 囲碁交流による健全な児童、健全な家庭、潤いのある地域社会づくり事業 | 34 |

情報ネット情報発信会員のサポート

【支援金確定額：25,248円 支援率：80%】

記入日：平成25年（2013年）3月26日

■どのような活動をしている団体ですか？

市民協働に関する環境づくりを目指して、市民協働の担い手である市民と行政が協力・連携することができるよう、そのコーディネーター役として良好なまちづくりを進めることを目的として次の活動を行っています。

- (1) 市民協働事業の実施事業や会員の活動などの情報交換
- (2) まちづくりの推進を図る活動及び市民公益活動を行う団体の運営もしくは活動に関する連絡、助言または援助の活動
- (3) 船橋市または市民公益活動団体から協力依頼のあった事項への参加活動



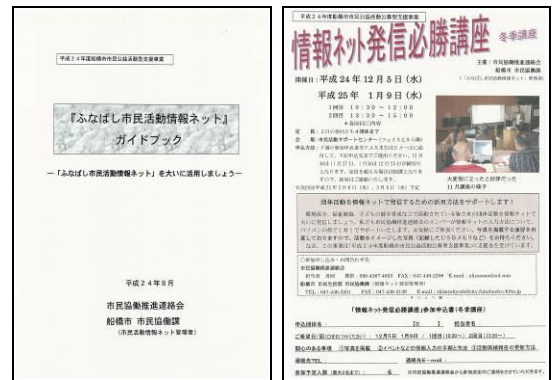
情報ネット発信講座の様子

■支援金をどのように活用されましたか？

市民活動情報ネットに登録されている会員（市民活動団体）の活動状況の発信を更に活発化するため、サポート講座を計画しました。事前に情報ネットへの問い合わせ事項を確認したところ、パソコンのどの画面から入力するのか、写真の掲載方法が判らないなどが寄せられていました。そこで入力手順を図示化し、Q&Aや参考となる事例を掲載し、具体的に実践的な講座用ガイドブックを作成することに支援金を活用しました。

【市民活動情報ネットとは】

- 船橋市がインターネット上に開設する情報サイトのこと。
- 市民活動団体がその活動内容を市民に広く発信しています。
- ・イベント・ボランティア募集・活動内容紹介など



講座のガイドブックと開催案内チラシ

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

情報ネットの入力サポートの講座を8月から8回にわたり開催し、参加した会員延べ46団体（複数回除く41団体）にパソコンの入力手順の説明と個別のサポートにより大変好評を得ました。

- ・入力した活動内容が直ぐに公開され、講座の場で参加会員が確認できた（写真掲載35、内容更新11）
- ・登録会員に繰り返し講座参加を呼び掛けたことにより、参加しなかった会員の意識も変化し写真の掲載件数が年度当初よりも約120件増えました。

登録会員全数：約550 写真掲載が有る会員数の割合：年度当初30%から年度末50%

- ・講座後のアンケート結果により、次回の対応を各回毎に検討した（説明方法の変更、Q&A追加）。
- ・市からは会場、パソコンの貸与と会員への参加案内を担当いただき、それぞれ役割を分担し協働した。

■今後の活動の抱負について

市民活動情報ネットの活性化を進めるため、平成24年度は講座形式により登録会員（市民活動団体）の情報活動の入力をサポートしました。平成25年度はその成果を踏まえ、その発信内容につきこれまで以上の公益性を高めていただくと共に、情報ネットを閲覧される市民への周知を更に広げ、情報の発信側と閲覧側とが活発に情報交換ができるよう環境整備に努めます。

■問い合わせ先：代表 金内 俊彦（かねうち としひこ）
 TEL：047-424-8123

ふなばし木の子の森：わんぱく講座

【支援金確定額：200,000円 支援率：78.27%】

記入日：平成25年（2013年）3月12日

■どのような活動をしている団体ですか？

「ふなばし木の子の森」は森の保全、育成と多様な生態系の調査と保存に取り組み、森の恵みと環境保護の大切さを多くの市民や子供達に伝え、啓発していく活動を実施しています。親子で森に来てもらい、森の中で多様な生態系を観察し、森の中で自由に遊び、自然に触れ合い、森の恵みを体験し、森の環境の大切さを考えるなどのイベントを計画し、実施しています。

今年度は3講座を実施しました。7月にわんぱく講座「虫と遊ぼう」、10月にわんぱく講座「森で遊ぼう」、2月にわんぱく講座「クラフトを作ろう」です。たくさんの親子に来てもらいました。



木の実がいっぱい、何をつくろうか？
(クラフト作りを楽しもう)

■支援金をどのように活用されましたか？

- ・森の保全、育成のための機材購入
- ・森に来てくれる親子のため、明るい安全な森への管理
- ・各イベント実施のためのポスターや資料作りと保険
- ・各イベント実施のための材料購入
- ・イベント1：多様な生態系を学ぶ「虫で遊ぼう」の実施
- ・イベント2：森の楽しさと安全を学ぶ「森で遊ぼう」の実施
- ・イベント3：森の恵みと活用を学ぶ「クラフトを作ろう」の実施
- ・各イベントを指導してくれる講師への謝礼



虫取り網、虫かごを持って、さあ行こう
虫を捕まえに（虫と遊ぼう）

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

各イベントでのアンケート調査の主な内容です。
・虫が自然の中でいろいろな働きをしているので緑が保たれていると感じた。
・虫嫌いの子供が一生懸命に虫を追いかけて、楽しかったと言ってくれた。
・たくさんの虫が住む森がこんなに近くにあって驚きました。
・木に登ったり、木を切ったりしたのが楽しかった。
・子供たちと森で遊ぶ事が出来て非常に楽しかった。
・安全管理等しっかりしていただき安心して子供を遊ばせる事ができた。
・知らない木の実がいっぱいあって楽しかった。
・初め何を作るか迷っていたが時間をかけて楽しんでた。
・3イベント共、楽しかった、またやりたい、また参加したいとの記入が多かった。

■今後の活動の抱負について

初めて3イベントを実施しました。森の準備、安全対策、講師の手配や雨の日の対策などいろいろな準備を、木の子の森のメンバーが分担してくれ、順調に実施できました。イベントを通じて感じたことは参加してくれた子供たちが目を輝かせて虫を追い、森の中で遊んでくれました。また、そばにいる親が表情豊かに見守っていました。そして非常に満足して帰っていきました。これらの経験を活かして、これからも継続してイベントを実施していきたいと思えます。船橋市の小さな森ですが、多様性に富む森ですので、市民の皆様にもその大切さと貴重さを発信していきたいと思えます。

■問い合わせ先：代表 米澤 理雄（よねざわ みちお）

TEL：047-333-8199

E-mail：rio.yone@gmail.com

船橋かるたによる、子供の健全育成を図る活動及び住みよい魅力あるまちづくり推進

【支援金確定額：165,856円 支援率：80%】

記入日：平成25年（2013年）3月21日

■どのような活動をしている団体ですか？

「船橋かるた」を使って子供達に地域への関心を持ってもらい、船橋への愛着を育てていこうとしています。船橋の歴史・文化・産業・自然等を詠んだオリジナルのかるたを通して、楽しみながら郷土愛を育み児童の健全育成を図ることを目的としています。

「船橋かるた郷土マップ」を作ることで親子や祖父母等の世代間交流をはかりつつ郷土に親しんでもらい、魅力あるまちづくりを推進していきます。



「かるたであそぼう」

■支援金をどのように活用されましたか？

支援金は主に「船橋かるた」100セットの製作費として活用しました。出来上がったかるたは小学校・児童ホーム・公民館のハッピーサタディ・こどもまつりで使用しました。宮本児童ホームでは大型かるたのぬり絵版を用意することで子供達に色を塗ってもらい宮本地区オリジナルのかるたが出来ました。宮本公民館にはこの大型かるたで参加しています。その他、放課後ルームやお休みどころなどにも普及のために設置しました。

定期的に宮本児童ホームで「かるたであそぼう」の事業を実施しました。宮本公民館を中心とした「船橋かるた郷土マップ」を作成しました。



「みやもとまつり」

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

峰台小4年生は社会の授業で実施し、3年生での郷土の学習を振り返ることが出来たと好評でした。芝山西小の3年生はかるたで船橋のことをたくさん知ることができてとても楽しかったとの嬉しい感想文を寄せてくれました。宮本児童ホームでは毎回子供達・職員にも好評で園長先生が南部ブロック会議で宣伝してくださり、海神児童ホームでも4～5歳児親子対象でかるた遊びを行いました。若いお母さん達にも喜ばれています。海老が作公民館のこどもまつりでも多くの子供達が楽しんでくれました。付き添いのおばあちゃんからもかるたを手にいれたいとの声が聞かれました。「ふなばし市民活動体験フェア」に参加した時も、船橋かるたやかるたマップに関心を持ってくださる方が多くいました。

■今後の活動の抱負について

各地域の「児童ホーム」での「かるたであそぼう」の定期開催を推進します。

児童の自分達の大型「船橋かるた」制作の推進をすすめます。

小学校の「郷土船橋」授業での「船橋かるた」の補助教材としての活用を促進します。

地域版（今年は北部）の船橋かるたの製作と普及につとめます。

老人福祉施設においても「かるた」の普及活動を行います。

「かるた」をもちいた「街あるきコース」の設定をおこないます。

■問い合わせ先：代表 鈴木 久美子（すずき くみこ）

TEL：047-435-2243

みんなおいでよ！船橋漁港の朝市

【支援金確定額：62,768円 支援率：80%】

記入日：平成25年（2013年）3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

「船橋漁港で水揚げされた水産物はどこへ行ったら買えるの？」という声にお応えすべく、船橋漁港（湊町3丁目）にて、毎月第3土曜日午前中に朝市を開催しております。

販売内容は、船橋漁港水揚げの水産物（鮮魚、貝類、海苔）、船橋産の農作物を生産者の方が直売、それらを使った加工品、石窯でその場で焼くピッツァなどです。

船橋漁港の朝市は2010年8月に第1回をスタートし、毎月1度の開催を継続しております。



朝市開催時の風景

■支援金をどのように活用されましたか？

本支援金でテントを固定するテントウエイト、朝市をアピールすべくのぼり、横断幕を購入いたしました。

のぼり・横断幕を購入できたことで「船橋漁港の朝市」をさらにアピールできるツールが購入できました。今後も継続してアピールしていきたいです。



開催場所は漁港ですが農作物も手に入ります

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

毎回の朝市には100～200名のお客様がお見えになっております。またお客様に鮮魚を購入いただいてさばき方を知っていただく「お魚のさばき方教室」も毎回ご好評をいただいております。

本事業による成果の1つ目は、毎回たくさんのお客様に船橋産品に触れていただける機会ができていることがあります。2つ目は、船橋市主催の「ふなばし朝市」に漁港の朝市メンバーが出店させていただけるようになったことで、場所は違えども船橋産品のアピールができるようになったことです。

これらの成果は朝市を数回開催しただけでは得られないものです。我々は継続できるペースで朝市を開催・運営することを強みに持っておりますので、今後もこの強みを活かしていきます。

■今後の活動の抱負について

今後も「毎月第3土曜日に」、「船橋漁港で」、「船橋産のものが手に入る」朝市を継続開催します。市民の方に地元産品をアピールするためには朝市を継続することが必要です。チラシやweb媒体を活用できるPRの方法を模索することで集客につなげます。集客ができれば、市民の方にさらに船橋漁港をアピールすることができます。

「船橋漁港から船橋全体へ」。船橋漁港から船橋の1次産業をアピールすることで、船橋全体の地域振興の活性を目指します。

■問い合わせ先：代表 内海 金太郎（うちうみ きんたろう）

TEL：090-3089-7100

E-mail：kintaro@kane8suisan.com

坪井のホタル復活計画

【支援金確定金額：85,829円 支援率：80%】

記入日：平成25年（2013年）5月4日

■どのような活動をしている団体ですか？

新しい街の住人に街への愛着を持ってもらえるよう、坪井近隣公園内の調整池に坪井の湿地を復活し、そのシンボルとして坪井原生のヘイケボタルの自然発生に取り組んでいる。

主な事業としては、市立坪井小、県立芝山高校、東邦大学里山応援隊、日本大学理工学部の指導、協力によりホタル幼虫の育成、湿地整備を進めている。具体的な活動はホタル講演会の開催、ハンノキ植栽、餌のカワニナ（巻貝）の養殖、他にPR活動として、坪井小PTA機関紙の取材対応、キャラクター作成と愛称募集、缶バッジの作成、配布をしています。



調整池にホタルを育てる水たまりを作る

■支援金をどのように活用されましたか？

- ・飼育水槽の整備
- ・湿地整備・・・農具、遮光ネット、支柱購入、
- ・講演会・・・講師謝礼、実験機材購入
- ・PR活動・・・キャラクター制作、缶バッジ製作



ホタル講演会：住民対象にホタルの生態、飼育水槽での観察、発光実験

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

- ・飼育水槽の中ではあるが、その中で育った坪井原生のヘイケボタルが見られたことで、住民のホタルと自然環境に対する関心が高まった。
- ・活動を通して、周辺の小学校、高校、大学と交流ができた。
- ・地元のみし学園自治会の協力が得られるようになった。

■今後の活動の抱負について

- ・25年度も原生ホタルの採集、坪井近隣公園内の湿地整備、ホタル講演会の開催などを通じて、活動の盛り上げとホタルの自然発生を実現させたい。
- ・湿地整備の活動により、坪井近隣公園内調整池の水生生物に対する環境を改善したい。

■問い合わせ先：代表 江口 章（えぐち あきら）

TEL：047-456-7551 E-mail：mirukun610@nifty.com

船橋市障害者スポーツ・レクリエーションの普及・推進

【支援金確定額：200,000円 支援率：49.84%】

記入日：平成25年（2013年）3月14日

■どのような活動をしている団体ですか？

障害者、高齢者等のスポーツ・レクリエーション及び文化等の振興を図ることにより、障害者等の社会参加の促進と健康増進に寄与することを目的としています。主な活動内容は、次の通り

①スポーツ教室の開催

薬円台教室、前原教室の2会場で実施

②第9回車椅子ウォークラリー大会の開催

今年度は雨天の為、中止となりました。

③船橋市障害者スポーツ大会の開催

市バドミントン大会参加、卓球交流大会実施

④障害者スポーツ講習会と普及・開発研究

ボッチャ等の講習、新種目の普及に努めた。



障害者スポーツ・卓球交流大会（2012.10.24 薬円台公民館） 障害者、家族・介助、指導員の3部門で実施。

■支援金をどのように活用されましたか？

①スポーツ教室（75回）、講習会（4回）、車椅子ウォークラリー大会等のPRチラシ作成費と開催案内郵送代

②障害者スポーツのガイドブック作成のPR費用

③障害者スポ・レク協会だよりの発行と郵送代

④スポーツ講習会の講師謝礼、障害者スポーツ用具借入費用

⑤スポーツ安全保険代

⑥協会事務運営の事務用品、パソコン購入代

⑦教室・大会・講習会等の諸費と装飾代等

概ね以上の事業支援に活用しました。

教室、講習会、大会等は参加費を徴収し、協会として自立運営出来るように努めています。



ボッチャ競技講習会：船橋市ボッチャ協会の指導で実践と審判の方法等学びました。

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

スポーツ教室参加者数は、薬円台教室（37回）315名、前原教室（38回）251名でした。

障害者とその家族の皆さんに数多く参加いただき、スポーツを通じた交流が深まりました。また、障害者施設の吹矢・バッキー等指導（13回）、精神障害者の卓球指導（22回）、身体障害者アーチェリーボランティア（48回）、知的障害者ソフトボール交流試合（2回）、高齢者施設訪問（4回）等を積極的に行い、障害者スポーツ指導、スポーツボランティアに努めました。（延べボランティア数は224名）

卓球交流大会には約30名程が参加し熱戦をくりひろげました。また、教室参加者を船橋市バドミントン初心者大会に出場させました。全国障害者スポーツ大会アーチェリー競技には船橋市の代表が選ばれ、役員として協会会員を派遣しました。総じて障害者が地域社会との関わりを広げる機会につながりました。

■今後の活動の抱負について

船橋市には千葉県や千葉市（政令指定都市）のような障害者スポーツ専用施設はありません。障害者自身ももっと積極的におもてに出で、行動することで関係先にいろいろな提案をする必要があります。当協会は、市内のスポーツ団体、障害者団体、スポーツ指導者等と協力し、25年度活動の重点事項として「船橋市障害者スポーツガイドブック」（市内スポーツ施設の障害者利用ガイド）の作成を掲げました。できることから始めよう！をモットーにいつでも、どこでも、いつまでも障害者スポーツがやれる環境づくりに努め、「こんなスポーツあったんだ！」を船橋市内に定着させていこうと思っています。

■問い合わせ先：会長 高橋 久吉（たかはし きゅうきち）

TEL：090-4226-9623

E-mail：jiyuujikan1946@ybb.ne.jp

三番瀬カレンダー制作

【支援金確定額：190,150円 支援率：45.65%】

記入日：平成25年（2013年）3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋市の目の前に広がる三番瀬は広範囲に埋め立てられましたが、残っている干潟、浅海域では今も多くの生物が生まれ育ち、漁業も脈々と続けられています。渡り鳥の飛来地としても全国的に知られています。

この三番瀬の自然の姿や漁業、伝統行事などの写真をカレンダーという見やすい形に編集し、小学校、公民館などに寄贈しています。また書店や地域のお店で販売もしていただいています。

三番瀬の自然環境が私達にとってかけがえのない貴重な財産である事を、より多くの方に感じて頂きたいと願い活動しています。



2012年12月市役所ロビーで2009年からのカレンダーを展示、三番瀬の様々な顔を紹介しました

■支援金をどのように活用されましたか？

支援金をカレンダー編集・印刷費用の一部にあて、船橋市立小学校全学級に寄贈する事が出来ました。特に子どもたちに三番瀬が身近な自然環境として大切な場所であることを伝えたいので、児童館など子どものための施設にも寄贈しました。

また、このカレンダーの拡大ポスターを市民の皆さまに見ていただくことで、三番瀬に関わる地元の歴史、行事、また漁業などについて再認識していただきたく、市役所(写真)や船橋本町通りなどで展示をしましたが、このための費用としても活用させていただきました。



2013年カレンダー10月

ミヤコドリ 冬鳥 三番瀬は日本一の飛来地とされています

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

船橋市民にとって「ふなばし三番瀬海浜公園」は身近な存在ですが、その公園の前に広がる海が三番瀬である事、またそこで海苔養殖や魚貝漁が盛んに行われている事などを「知らなかった」という方がまだまだいらっしゃいます。その方達は三番瀬カレンダーや展示された拡大ポスターを見て、「船橋に三番瀬という優れた自然環境がある」ことにあらためて驚かれます。以前から三番瀬の事をよく知っている方も「やはり、三番瀬は貴重な場所」との感想を語られます。

三番瀬という自然環境が日常生活に近いところ、あるいは生活に密着して存在していることを、カレンダーの写真を通じて伝えられたとおもいます。

■今後の活動の抱負について

来年度も引き続き三番瀬カレンダー（2014年）の制作を行います。小学校を中心とした寄贈、拡大版の展示などを続ける事によって、三番瀬の自然や漁業、三番瀬に関わる町の歴史や行事などを大切な財産と考える市民が増えていくことを願って活動します。また、これらの費用とするため、カレンダーの有料頒布などもより広く行いたいとおもいます。

■問い合わせ先：代表 田原 悦子（たはら えつこ）

TEL：090-2457-7102

E-mail：et-higashihunabashi@mild.ocn.ne.jp

読書活動の一環として子どもの人形劇講座

【支援金確定額：180,000円 支援率：49.29%】

記入日：平成25年（2013年）4月16日

■どのような活動をしている団体ですか？

平成6年に地域の人形劇を愛する者が集まり結成したアマチュアの人形劇団がMあんどBです。（現在女性5名、男性1名）

船橋市内の保育園、幼稚園、公民館、アンデルセン公園などで人形劇の上演をしている。それ以外に山形の鶴岡市、寒河江市の図書館に招かれて読書活動の一環としての人形劇上演、国民文化祭への参加、国際人形劇連盟をとおしての海外公演等あわせて年間30ステージほどの人形劇上演、その他 保育の為の人形劇講座、子どもの為の人形劇のワークショップなど依頼または企画し実施する。



ひよこ、あひる、うさぎ「お兄ちゃんって神様みたいだね」
きつね「神様みたい？ポ～」

■支援金をどのように活用されましたか？

「読書活動の一環としての子どもの人形劇講座の開催」しました。人形劇講座の内容としては、

- ・脚本—小学校の教科書にでてくる“きつねのおきやくさま”の作者・納富俊朗氏（九州在住、劇団ののはな団長）を講師として依頼する。
- ・子どもたち募集のためのチラシを作成し配布
- ・5月26日、27日 納富俊朗氏、納富祥子氏による講座
- ・6月2日、9日、17日 藤田栄子氏による講座（ボイス・トレーニング、体のレッスンも含む）

いずれも、宮本公民館で午後1時より午後4時まで。

6月24日 ちば県人形劇まつり in ふなばしで上演



脚本の読み合わせ

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

脚本を読み、人形をもち上演することにより、本の内容を深く理解する必要がある、子どもたちにとっては、これからの読書にむきあう気持ちが変わったのではないかと思う。

募集のチラシで集まった異年齢、異地域の子ども・大人がひとつの作品を創りあげる楽しさと同時に協力する必要性を会得する。人形劇は1人でつくるのではなく、お互いにキャッチボールしながらでないとい劇は進行しません。キャッチボールする事により、会話する楽しさを知り、必要性を感じ、他人を理解することができるのです。

■今後の活動の抱負について

次回の募集を期待する声があるので同じような講座を実施したい。

読書活動をよみきかせとか、本の紹介〈ブックトーク〉だけにとどめず、違ったジャンルから本の楽しさを知る入口となる人形劇の上演を、学校、保育園、図書館などで実施できたら、と思います。

集まった子ども達の明るい顔、つきそってきた大人の楽しそうな顔をみると、たくさんの人が協力して作品をつくりあげ上演する機会をこれからも提供する必要性を感じ、地道にこの活動を進めたい。

できあがった作品を機会があれば上演し、船橋のあたらしい文化の誕生！！

■問い合わせ先：会長 佐藤 澄子（さとう すみこ）

TEL：047-424-6479

E-mail：sumiko@sbiz.co.jp

市内在住外国人との交流を図り、市の国際親善事業の普及向上に貢献するための市民活動推進

【申請金額：94,625円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

市内で活動している英語学習クラブ有志の連盟であり、各クラブがそれぞれの活動を行うのみでなく、行事を通して日本と外国文化の交流を行う。また、英語学習及び国際交流への興味関心を持つ市民への広く、窓口になるような事業を長年継続して行っている。主な行事として、第27回英語フェスティバルは外国人ゲスト9人を含め、ミュージシャン等を招き、スピーチを聞く、交流をする等国際感覚の向上ができ、90名の参加者であった。他、アメリカ人によるキッシュとマンダリンオレンジサラダの料理教室を開催、28名の参加で盛況であった。

The 27th English Festival by FEA at Kaijin Community Center on Oct. 28th



第27回英語フェスティバル

■支援金をどのように活用されましたか？

市からの支援金により、質の高い英語を話し、コミュニケーション力の高い外国人ゲストを招致することができ、国際交流を目指した市民の興味関心を得る行事の内容にすることができた。また、日本の文化の紹介として、英語で紙芝居を行うゲスト、カントリーミュージシャンのゲストの招致を行い、日本、外国の文化交流の目的を達成することができた。支援金がないとこれらは直接、参加者負担となるが、一般市民を無料とすることができ、結果として、参加者多数の盛大なイベントになった。



リズさんの料理教室

英語による料理会も良い講師を招致でき、外国の食文化を楽しみ、英語による交流ができた。

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

英語フェスティバルでは参加型の「フリートーク」の時間を多くとり、外国人ゲストとの交流を多く持て、参加者に喜ばれた。

英語に興味のある方、初心者の方などが英語を話すことは楽しいと感じ、学習を始めるきっかけ作りとなった。市内の各英語クラブの内容紹介をすることで、それらの方が自分に合うクラブを探して、今後の活動を始める機会となった。

連盟参加英語クラブ会員同士の交流も行うことができ、会員の英語学習意欲が高まり、国際感覚の向上ができた。

料理教室ではアメリカの料理を行うことにより、英語を通して日米の食文化交流を行うことができた。

■今後の活動の抱負について

現在、連盟に参加しているクラブは限られており、さらに市内の英語クラブとの連携をとり、市民の便宜を図り、草の根国際交流を目指す。また、英語学習を通して生涯学習を目指し、外国人とのコミュニケーションを楽しみたい市民の窓口としての役割を果たしていく。

市民、各クラブ会員ともにさらに英語を話すことは楽しいと感じるイベントの計画をしていく。そのひとつとして英語落語等の取り入れをし、英語による娯楽の楽しさも市民に広めていく。

■問い合わせ先：理事 長濱 美知子（ながはま みちこ）

TEL：047-423-1220

E-mail：jeans_n@hotmail.com

精神障害者を抱える家族に対する支援事業

【支援金確定額：107,378円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）4月19日

■どのような活動をしている団体ですか？

精神障害者を抱える家族が、悩みを分かち合いながら、さまざまな問題を解決したいと2003年9月に結成されました。当事者を支え、回復につなげるためには、まず「家族が元気になろう」を目標としています。そのために、月2回の談話会（悩み、困り事の相談等）、講師を招いて出前講座（勉強会）をしています。また、このような家族会がある事を知ってもらう目的で、皆さんと一緒に楽しめるチャリティーコンサートも行っています。



チャリティーコンサート

■支援金をどのように活用されましたか？

常にストレスを抱えている家族、談話会や出前講座に出席したくても出席出来ない(理由として、当事者の不安が強く1人で家に居られない等)家族のために情報源としてのお知らせ発行（年4回）発送費の補助として、出前講座の講師へのお礼の補助として、チャリティーコンサートの会場使用料及出演者への謝礼の補助として、活用しています。



出前講座

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

チャリティーコンサートでは、毎回（24年度は8回目）200名以上の方が来場くださり（家族会以外の一般の方は150名ほどになります）、家族会の存在をPR及び理解をしていただけたと思います。コンサート、出前講座のチラシを見た方から問合せがあり、見学、入会に繋がった方もいます。常にストレスを抱えている家族に対しては、悩みや困り事の相談を受け、思いを共有する、お知らせを発行することによって、支援ができていると思っています。

■今後の活動の抱負について

周りから孤立しがちな家族、常にストレスを抱えている家族の悩みや、困り事の相談、出前講座、思いの共有を通して、少しでも問題を解決して、「家族が元気」になれるように、また、精神障害者を抱える家族のための家族会がある事を知っていただくと共に、地域で家族や当事者が安心して、生活できるようになることを理解していただけるよう、努力していきたいと思っています。

■問い合わせ先：オアシス家族会事務局（AM9時～PM7時）

TEL：080-5420-0843

高齢者の文字情報における講座（要約筆記付）

【支援金確定金額：30,003円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）5月7日

■どのような活動をしている団体ですか？

NPO千葉県中途失聴者・難聴者協会は、中途失聴者や難聴者を含む聴覚障害者の福祉を目指し活動している団体です。特に人生の途上で失聴または難聴になり、音声コミュニケーションが成り立たず喪失感に悩む人たちへのコミュニケーション方法の獲得や、社会への理解を求める啓蒙活動を中心に月例会などを行っています。耳マークの普及やコミュニケーショングッズの筆記ボードなど中途失聴者や難聴者のコミュニケーション支援補助用具の製作等にも力を入れています。



OHP（オーバーヘッドプロジェクター）
を使った文字提供の様子

■支援金をどのように活用されましたか？

たくさんの人が集まる場で、聞こえにくい人のために文字情報（要約筆記）の提供を行いました。

特に高齢による聴力低下は本人も気づかずにいます。そのための聞こえの保障は周囲の環境づくりが大事ですので、NPO法人として取り組みました。

今回は高齢者施設での入所者の説明会に文字情報（要約筆記）を提供しました。



話し手と読み手の様子

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

聞こえにくいために日ごろは不自由でも我慢をしていた入所の方々から「文字情報を見ることで説明内容がよく解り、参加者全員とも自由に交流できた」と感想が出されました。周囲の方々が聞こえにくいことの状態を把握できることにもつながり役に立ったと入所者や施設の職員さんからも感想が出されました。また高齢など体力や機能の衰えをカバーするためのひとつに、コミュニケーションにおいては文字で補完する必要性も理解されました。

■今後の活動の抱負について

この活動を通し、他者への連絡方法やコミュニケーションには音声だけでは不十分であることを広く訴え、そのための支援を続けていきたいと思えます。

■問い合わせ先：事務局長 鈴木 文恵（すずき ふみえ）

TEL：047-432-8039

E-mail：ccnk@kzd.biglobe.ne.jp

粹・生き健康生活づくりですこやか船橋！市民協働の健康とまちづくり事業

【支援金確定金額：93,008円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

中高年者を対象とした健康づくり活動として
●「イスに座ってできる健康体操」「チェアフラダンスエクササイズ」などを公民館などで行っています。

●「船橋市の特産物」でヘルシー&美味しいレシピの提案

・第1回は小松菜、人参のオリジナルレシピを発表し試食会を実施しました。



チェアフラダンス
(オリジナル体操)



イスに座って行う健康体操

■支援金をどのように活用されましたか？

●粹・生き健康体操教室

習志野台公民館・船橋市勤労市民センターにて
※無料体験・見学会を計9回実施しました。

●美味しい&ヘルシーレシピ発表会

「ふなっこ畑」から船橋の特産品の小松菜と人参を購入し、
レストラン「セルクル」のシェフにレシピを考案していただき
て試食会を開催しました。

●船橋市健康まつり2012 11/3

公開レッスンと健康セミナー 5コマ実施しました。



船橋の特産品を使ったヘルシー料理

■事業を実施して、どの様な成果がありましたか？

イスに座ってできる、チェアフラダンスエクササイズは大変興味を持っていただけました。

足腰が弱くなり、フラダンスができなくなってしまった方も椅子に座って楽しんでいただけました。自閉症の方や、肩や背中が凝り固まってしまった方の心身ともにリフレッシュしていただけました。船橋健康まつりでも好評でした。

オリジナルレシピの試食会も大変好評で、新しいエリアからのご参加をいただけました。

■今後の活動の抱負について

●健康体操教室では「チェアフラダンスエクササイズ」をメインに常設の教室やイベントにも活動を広げて行きたいと思います。

●「ヘルシー&美味しいレシピ」は船橋の地産地消を基本として、これからも提案と試食会をしていく予定です。

●子育て支援分野のイベントか教室を開設したいと思っています。

●出張教室の実施を考えています。

■問い合わせ先：代表 川邊 麻未 (かわべ まみ)

TEL：070-5559-7079

E-mail: precious-life2010@nifty.ne.jp

<NPO 法人うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋> 【事業提案型・2年目】

知的障害者と家族等の権利擁護と成年後見制度の相談と支援事業

【支援金確定額：285,000円 支援率：40.51%】

記入日：平成25年（2013年）3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

判断力が十分でない知的障害・発達障害のある人たちと支援者等の人としての権利や幸せな暮らしを守るために成年後見制度利用の支援と相談及び啓発活動をしています。

通信発行、勉強会（研修、講演）

また、外出する機会の少ない重い障害のある人たちに音楽やダンスを楽しんでもらうひと時を持ちました。（春よ来い！フェスティバル）



船橋市立船橋高等学校吹奏楽部の演奏、ダンス

■支援金をどのように活用されましたか？

◎勉強会 1回 講師 岩田康孝弁護士
「遺言書と親心の記録の書き方」

◎「春よ来い！フェスティバル」～障害者の集い～
船橋市手をつなぐ育成会と共催
船橋市立船橋高等学校吹奏楽部の演奏とダンス



勉強会「遺言書と親心の記録の書き方」

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

◎遺言書の書き方は一般の健常な人々とも共通であることがわかりました。亡くなられた後に起きるトラブルを想定しておくことの大事さを知ってもらえました。また、「親心の記録」は、障害がある為に伝えられない重要な事柄を親が元気なうちに、本人に代わって書き残しておくことが大事だと知っていただきました。

◎春よ来い！フェスティバルは、障害があるために奇声を出したり、静かに聞いてもらえないと、一般の音楽会にはなかなか行きにくいという方が140人集まり、船橋市立船橋高校吹奏楽部のコンサートとダンスを堪能しました。素晴らしい1日となりました。来年も…、という声も聞いています。

◎成年後見制度、選挙権問題、障害者虐待防止、障害者差別、家族支援等も掲載し、啓発に努めました。

■今後の活動の抱負について

今年度（25年度）も同様の活動をしていきます。

◎勉強会 2回

◎コンサート1回

◎通信発行10回

相談、支援、啓発活動、船橋市手をつなぐ育成会と連携しながら、障害があっても安心して幸せな暮らしが築けるよう活動します。

■問い合わせ先：代表理事 赤津 保子（あかつ やすこ）

TEL：090-1217-3003

E-mail：yfa701395816@nifty.com：

各種ウォーキング講習会を通して市民のための健康増進活動推進事業

【支援金確定額：125,000円 支援率：49.8%】

記入日：平成25年（2013）年3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

「仲間と一緒にウォーキングを楽しんで あなたも私もみんなハッピー！」これが私たちの活動目的です。超高齢化時代の健康のためのウォーキングは、「基本」を大切にしながらも個人の身体条件等に適した方法での支援が望まれます。3つのウォーキング法（2本のポールを使ったノルディック・ウォーキング、心拍数と歩く姿勢を意識したパワーウォーキング、健康な体づくりを目指した運動も入れるヘルス・ウォーキング）の公認指導員が地域住民の方々の支援をしています。ウォーキングの楽しさ、きっかけづくりのための「体験会」と、運動習慣と仲間づくりのための「定例会」があります。



県立行田公園でのウォーキング

■支援金をどのように活用されましたか？

市民を対象にした「体験会」を市内8箇所で開催しました。支援金は、NW体験用ポール購入と開催経費に活用しました。体験会回数は17回、参加人員は延289名、会場は丸山公民館、塚田公民館、県立行田公園、東武百貨店、海神小、運動公園等です。「ノルディック・ウォーキング（NW）」は、安心、安全な上に運動効果が高いので、高齢化社会における最も有効なウォーキング法です。同じ目的を持つ団体、整骨院、百貨店と共催で開催しました。シニア対象法典公民館NWは、はま整骨院と協働で運動習慣をつけるために、体験会から月1回の定例会（9回、延107名）へと発展しました。ほかに、【転倒予防ウォーキング教室】を中央老人福祉センターで、健伸行田幼稚園のお母さん方に【歩き方の基本】を開催しました。



東武百貨店屋上での体験会

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

- ①運動の必要性和運動の楽しさ・気持ち良さを感じてもらった。
- ②NWで、足腰の痛みが改善し、健康維持・増進に繋がったとの声が聞かれた。
また、中高年の生活習慣病の数値が改善した例も。
- ③時間のない若い人が、日常生活で意識して歩くだけで効果が出ることを理解した結果、毎年ウォーキング講習会を実施することになった。
- ④体験会や定例会への受け入れによる仲間づくり効果で、引きこもり防止に貢献。
- ⑤ポール・靴などのツールで経済効果があった。

■今後の活動の抱負について

私たちはウォーキングで元気で明るい船橋の街づくりに貢献したいと考えています。リハビリから介護予防、健康増進、体力強化まで全ての人におすすめできるNWを中心に、現状に加えさらに新たな団体と協働で企画を進めています。NWは、2種類あります。できるだけ市民の多く集まる場所で、適切なポール選びと使い方をアピールして、健康づくりに役立つウォーキングの普及に努めたいと考えています。

身体に無理のないNWとして「室内でできるポールエクササイズ」「健康生きがいがづくり東葛の会と共催NW」フィットネスとして、船橋港親水公園でNW初心者クラスを見て、体験してもらうのに、「スポーツの祭典」「健康フェスタ行田公園」に参加します。私たちは、「ウォーキングで心も若く、身体も若く」を合言葉に頑張ります。

■問い合わせ先：代表理事 佐藤 ヒロ子（さとう ひろこ）
TEL：047-438-8818

世代を超えてみなで唱歌・童謡を歌おう

【支援金確定額：242,500円 支援率：47.33%】

記入日：平成25年（2013年）3月23日

■どのような活動をしている団体ですか？

おなかから大きな声を出して歌を歌うことは、とても気持ちが良く、気分もスッキリして元気になります。歌うことで一人でも多くの船橋市民の皆さんが、体も心も元気でいて欲しいと思って活動しています。また、季節や行事ごとに心に思い出される唱歌・童謡を子供から大人まで一緒に歌うことで、歌い継がれてきた日本の心を次の世代にもつなげて行きたいと思っています。

毎月1回市内の公民館で行なう「唱歌・童謡講座」は、予約が不要で気軽に参加できる会です。また、昨年12月に勤労市民ホールで行ったコンサートでは舞台上で歌ってもらい、大変好評でした。



歌おう船橋！！歌の花束コンサート

■支援金をどのように活用されましたか？

昨年度は目標であったコンサートを2つ開催することが出来ました。1つは三咲児童ホームで行なった親子向け、2つ目は12月に勤労市民センターで行なった誰でも参加出来るコンサートでした。どちらも参加費無料で行なったのは、支援金のおかげです。初めて実施したコンサートだったので、まずは市民の皆さんにコンサートを知ってもらうことを目的に無料で行ないました。どちらのコンサートも大変好評で、今年度も実施の方向で計画しています。

コンサート会場費や、プログラム、チラシの制作費、月に一度の講座の会場費や講師の先生への謝礼の補助金として使わせて頂きました。



「みんなで歌う唱歌・童謡講座」

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

コンサートを実施する前にたくさんの問い合わせの電話をいただきました。話を伺うと、歌を歌いたいがなかなか場所や機会に恵まれない人がたくさんいることがわかり、講座を実施する地域を広げてみる事にしました。12月のコンサートには200人以上の参加があり、その後の「みんなで歌う唱歌・童謡講座」への参加者や問い合わせが2割ほど増えました。

また8月に実施した親子向けのコンサートでは、79名ものお母さんや子ども達が参加してくれました。中でも特に歌うことが大好きな子ども達がその後も練習を重ねて12月のコンサートに参加し、会場の雰囲気盛り上げてくれました。

■今後の活動の抱負について

公民館が抽選なのでなかなか希望する会場が取れないのですが、これからもなるべく市内のいろいろな地域で講座を実施して行きたいと思っています。コンサートを実施した評判もとても良く、また開催して欲しいというアンケート回答も多数いただいたので、舞台になるべく多くの方の市民の方に上がってもらえるように、今年度もコンサートを実施したいと思っています。回を重ねる毎に講座への参加者も増え、コンサートの実績も出来たので、支援金がなくても自立した活動が出来るように、活動をより多くの市民に広げていきたいと思っています。

■問い合わせ先：代表 小林 里美（こばやし さとみ）

TEL：047-449-5540

E-mail：chibamomonokai@gmail.com

前原西2丁目花と緑のまちづくり活動

【支援金確定額：68,584円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）4月22日

■どのような活動をしている団体ですか？

発足3年ですが、まちおこし活動として花と緑のまちづくり活動が少しずつですが成果をあげております。次のスローガンを掲げております。「住んでよかった前原、明るく美しい花と緑の前原」また、地域活動として花・木を植えるだけでなく、美化運動としてごみのないまちづくりを目指しております。

平成24年11月29日付で市より環境美化モデル活動として認定を受けました。



除草後、耕作中

■支援金をどのように活用されましたか？

花・木・杭・ロープ清掃用材との購入に充てております。また、まちづくり活動のポスターや、チラシの印刷代として活用しました。



「街に花と緑の会」の掲示板

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

花・木が大変整備して植えられるようになりました。ゴミも以前より少なくなり、ポイ捨て運動の成果が上がりました。路上の駐輪もゼロの状況です。

また、JR津田沼駅外の西側、前原西1丁目方面の道路脇のJRの敷地に花壇が出来、低木のさつきが植栽され放棄駐輪がなくなりましたと言われております。

■今後の活動の抱負について

月1日の活動ですが、会員一同一生懸命がんばります。

ポスター・チラシを作り、まちぐるみで花と緑の街づくり、そして美化運動を推進していく活動です。

活動が路上なので交通安全運動、歩道の自転車通行の安全のための活動も交番との連携活動として、自転車安全利用の宣伝にも取り組みます。

■問い合わせ先：代表 堀川 健児（ほりかわ けんじ）
TEL：047-473-0694

成年後見制度を広く船橋市民に広め、市民後見人の養成の一步とする事業

【支援金確定額：170,094円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）5月15日

■どのような活動をしている団体ですか？

成年後見制度と介護保険制度は、両輪であるはずの両制度ですが、成年後見制度の普及は、介護保険制度の普及に遥かに及ばず、後見が必要な人達の権利が脅かされている状況があります。成年後見制度を広く市民に知ってもらい、権利擁護の面からも成年後見制度の活用を推進する。さらに、地域に住み、地域のことよく知っている市民の中から、後見人を養成（市民後見人）、受任を推進することによって、大幅な後見人不足を解消するだけでなく、本当の意味で、市民が安心して暮らせる地域づくりを目指しています。



市民後見人養成基礎講座

■支援金をどのように活用されましたか？

市民後見人養成基礎講座（船橋）を9月8日（土）、9日（日）、15日（土）、16日（日）の4日間、生活協同組合パルシステム千葉船橋本部・4階会議室で開催しました。

また、より分かりやすい市民後見人養成基礎講座・入門編資料を作成しました。（平成25年度、成年後見制度の市民向け入門講座の出前講座等に対応していきます。）



公開報告会

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

市民後見人養成基礎講座（船橋）も2回行いましたが、1回目は、多くの介護・福祉職の方の受講者が過半数を占めていましたが、今回は、打って変わって一般市民の方の参加が中心で、専門職の方も福祉専門職以外の各分野で仕事をされている方が受講されていました。1・2回の講座で約100名の受講者、70名を超える修了者となりました。講座の案内の配布及び当会の葉の配布等により、まだまだ不十分ではありますが“成年後見制度”の言葉とその一般的な理解のひろまりに、貢献できたかと思えます。

■今後の活動の抱負について

平成25年度も市民後見人養成基礎講座（船橋）を行います。こちらの講座終了時には、講座修了者が100名を超えるかと思えます。このマンパワーを実際の後見受任に向けるべく、さらなるステップアップ講座の開催と、相談事業をすすめます。また、一方で船橋市民により“成年後見制度”の理解を進めていくべく、「成年後見制度の入門編」の開催と、各地域での要望に応えるべく“出前講座”にも対応していきます。

■問い合わせ先：事務局 渡邊 誠志（わたなべ せいじ）

TEL：047-357-2700

E-mail:chiba@shimin-kouken.com

「三番瀬の生きものから縄文時代の干潟の歴史を知る」 in 飛ノ台 Part2
～生きもの観察会から飛ノ台周辺環境の歴史を散策する～

【支援金確定額：327,304円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

- 1・三番瀬の干潟、浅瀬環境のフィールドで四季変化する動物・植物の観察会、調査を年間計画をたて実施しています。
- 2・博物館の学芸員及び在野の専門家の指導も受けて活動しています。
- 3・海（里海）・川（里川）・緑地山林（里山）の繋がりを観察会やシンポジウムを通して学ぶ活動をしています。
- 4・大人・子どもともに自然を大切に、楽しむ活動をめざしています。



飛ノ台史跡博物館の展示の様子

■支援金をどのように活用されましたか？

24年度は、三番瀬の生きものたちの生態を飛ノ台史跡公園博物館の展示ホールに於いて、2月16日～3月31日まで展示の実施をしました。更に、講演会、ワークショップを実施しました。

講演会は、「貝塚より出土する動物からわかること」・「現在の渡り鳥の干潟環境」の話から人々の暮らし方、生きものたちの繋がりを学びました。三番瀬に集まる渡り鳥たちの生態写真を通して参加者に知ってもらえました。飛ノ台史跡公園博物館展示の縄文時代からの人々との繋がり、地形の変化を学ぶ空間にもなりました。

ワークショップは、おかあさん、おとうさん、おばあちゃんと「かぶれる渡り鳥たちの折り紙帽子づくり」・「デコイの鳥たちの色塗り」を楽しみました。



ワークショップ
「デコイの鳥たちの色塗り」

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

三番瀬に集まる渡り鳥の生態の写真を見て、講演を聞いて、ワークショップで作る作業から、生きものの暮らしと私たちとの関わり、自然の大きさを体感できたのではないのでしょうか。

アンケートからも、三番瀬の大切さを理解できた、三番瀬の観察会に参加したい！ワークショップはたのしかったなどの感想が寄せられました。

講演を聞かれて、写真展を見て、質問も沢山されて、評価されたのではないのでしょうか。

■今後の活動の抱負について

身近にある自然環境を観察して、書いたり、描いたり、写したりなど表現する活動に繋がりたい。

自然環境を大切にすることを学べるシンポジウムなども計画したい。

それぞれ活動している団体や個人とネットワークづくりを広げたい。

私たちの住む地球をみんなで大切にしたい。

未来の子どもたちに繋がる活動や、周辺の自然や博物館、施設を大切に活用する活動を行いたい。

■ 問い合わせ先：共同代表 佐藤 聡子（さとう ふさこ）、田澤 浩一（たざわ こういち）
TEL：090-1769-9494 E-mail：hosikuzu@eos.ocn.ne.jp

<丸山を元気にする会>

【事業提案型・2年目】

丸山を元気にしよう！朝市・夕市の開催&丸山ひまわり110番を探せ！！
ハロウィンウォークラリーイベント開催

【支援金確定額：187,335円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

地域住民の親睦を目的とし、活気ある地域作りを目指す地元有志が中心となり立ち上げた団体。

「朝市・夕市の開催」月に一度、地元有志などによる朝市又は夕市を行っている。地元農家の朝どれ野菜や、その場でしか手に入らない手作り食品などの販売を通し、地域住民の中でのコミュニケーションを図る。

「丸山ひまわり110番を探せ！！」ウォークラリーをしながら、学区内のひまわり110番の家と子供達、その保護者とのコミュニケーションを深める。



丸山ひまわり110番を探せ！！

■支援金をどのように活用されましたか？

「朝市・夕市の開催」

24年度は12回行い、その内11回、新聞に折り込み広告を入れた。広告のデザイン、作成、印刷、折込などにかかる費用を支援金で賄った。

「丸山ひまわり110番を探せ！！」

ウォークラリーを2回行い、サポートをする保護者に目印として揃いのカラーのバンダナを配った。スタッフのTシャツを揃えた。ウォークラリーのポイントである「ひまわり110番」のお宅に回ってきた子供達に配るお菓子を用意した。参加する子供達の傷害保険に入った。冬場のイベント時に暖房を用意した。参加した子供の数は述べ200人を超える。



ハロウィンなのでみんな仮装しています
ひまわり110番のおうちで
「トリックオアトリート！」と言うと
お菓子がもらえます

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

「朝市・夕市の開催」は定期的に開催していることもあり、地元住民に広く周知されつつある。出展参加者も次第に増え、有志の事業者のみならず、個人の参加も増えている。24年度に行った12回のうち、3回は大きなイベントと合わせて行い、次第に規模も拡大しつつあり、地元住民の日常的なコミュニケーションの場としてのイベントとして成長している。

「丸山ひまわり110番を探せ！！」は、いつでも子供が安心して助けを求めることのできる大人が、回りにたくさんいることを、子供達、その保護者達に認識してもらうことが出来つつある。丸山小学校学区は2回目の開催、法典東小学区は1度目の開催である。その都度ルートを変えて、なるべく多くの「ひまわり110番」のお宅に伺えるようにした。24年度参加した子供達は延べ200人を超え、大盛況であった。

■今後の活動の抱負について

「朝市・夕市の開催」は定期的に開催する。

「ひまわり110番を探せ！！ウォークラリー」は継続する。

年に数度、地域を巻き込む大きなイベントを企画、実行し、継続していきたい。

地域住民が一体となった、元気で明るく楽しい町を作りたい。

子供達が「知らない大人」に警戒しながら大きくなるのではなく、のびのびと育っていくために地域の目で見守っていく工夫をしていきたい。

■問い合わせ先：事務局 メネゼス 宣子（めねぜす のりこ）

TEL：047-460-0475

E-mail：ne_international@yahoo.co.jp

船橋市における街案内ボランティア組織と活動の創出および人材育成事業

【支援金確定額：561,315円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月28日

■ どのような活動をしている団体ですか？

3つの活動をしています。

- 1 ふるさと案内マイスター（観光協会認定ガイド）の養成講座および更新研修講座
- 2 同マイスターによる、市民や団体様の街歩き案内活動
- 3 船橋市における新しい都市観光事業の創出・研究活動



私たちが船橋再発見巡りにご案内します。
いつでもお越し下さい。

■ 支援金をどのように活用されましたか？

- 1 講座の講師料や会場費・テキスト作成などに活用させていただきました。
- 2 街歩き案内用マップ制作・傷害保険料・案内ビデオ作成料などに活用させていただきました。
- 3 市内観光資源の発見・開発研究に活用させていただきました。



市民ガイドの技術とマナー講座風景

■ 事業を実施して、どのような成果がありましたか？

- 1 既に誕生した40人のマイスターに、更に10人のマイスター認定者が加わりました。
- 2 市内案内用マップなどを活用して町会・自治会・NPO・その他の一般市民団体・小グループのみなさんを“地域再発見の旅”にご案内し、街のにぎわい効果・活性化効果・地産地消効果の向上などに寄与しました。
- 3 船橋の観光資源の発見や活用研究が始まりました。（海老川・漁港・三番瀬活用など）

■ 今後の活動の抱負について

- 1 マイスター相互の意見交流・合同見学・共同研究などを通じて、ガイド力量の向上に努めます。
- 2 町会・自治会・教員・NPO・子どもたちなどにお誘いや働きかけを強め、より多くの市民の皆様へ“地域再発見”街歩きの楽しさを提供します。
- 3 街なか・海寄り・海老川コース以外のエリアでのコースづくりに積極的に取り組みます。

■ 問い合わせ先：事務局長 人見 邦良（ひとみ くによし）

TEL：047-422-0596

E-mail：info@funakan.com

親子で船橋漁港の見学と三番瀬・東京湾クルージング！

【支援金確定額：101,911円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）4月1日

■どのような活動をしている団体ですか？

私たちは出来るだけ多くの市民、企業、大学、行政などに参加を呼びかけ、東京湾に僅かに残された三番瀬の豊かな自然環境を保全するため、ラムサール条約に登録することを目的として活動しています。

具体的には年間の行動計画を基に市の行事にも参加し、勉強会・観察会（ふなばし三番瀬海浜公園）・シンポジウム・写真展・料理教室等を開催しています。市民の皆様の声を署名用紙に託した署名活動も行っています。



三番瀬・東京湾クルージングに出発！

■支援金をどのように活用されましたか？

24年度は多くの市民に三番瀬の魅力を知っていただきたく、2回（5月・9月）実施する予定でしたが、4月中旬ごろ、各報道機関から東京湾へ流入する江戸川はじめ、各河川の放射能汚染が伝えられたために、5月を中止し、各機関で放射能測定不検出になった、9月に実施しました。

具体的には、

- ・会場は船橋漁業協同組合冷蔵庫棟と周辺をお借りし、三番瀬の生き物の写真や三番瀬カレンダーをパネル展示し、船橋漁港で水揚げされたばかりの魚を並べました。
- ・今回初めての試みとして、親子で「お魚の捌き方教室」を開催しました。
- ・前日からプロの料理人の指導の基にスタッフで作った、三番瀬の食文化の三番瀬シーフードカレーを、漁港を眺めながら味わっていただきました。
- ・三番瀬・東京湾クルージングでは貝殻島上陸し、「しらせ」・海苔ひびや飛び跳ねる魚等を間近に見学し、船上で船長や漁師からの説明がありました。



親子で魚の捌き方を体験！

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

この事業を実施し、子ども達や市民が五感で自然豊かな海・三番瀬の重要性を理解していただく事が、団体の目標実現に向けての活動であることを実感しました。

■今後の活動の抱負について

お魚の捌き方教室では、お魚なんて触れないと言っていた子ども達が、触って、捌いて、「もっとやりたい」と真剣な眼差しで言っていたことが印象的でした。今後の活動は海・三番瀬が身近に感じられ、目に見えるわかりやすい形で三番瀬の自然を体験し、普段学校や家庭で出来ない事業を展開していきたいと思いました。

■問い合わせ先：事務局 渡辺 優子（わたなべ ゆうこ）

TEL：047-422-0772

E-mail：yuko-lapislazzuli25@nifty.com

「認知症」に関するシンポジウムの開催

【支援金確定額：218,214円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋地域における福祉・介護・医療サービスの充実のためには、現在のシステムでは不十分であり、新たな構築が必要です。そのためには、医師・看護師等の専門職の枠組みを超え、サービスを受ける側の意思が反映されるよう、地域住民をも含めた新たな連携関係が重要です。専門職がそれぞれの仕事を通じて得た知識と経験を有効に活用し、新しいサービスシステムを創出し、一般に普及することを目的としています。

平成25年3月現在で、会員数は約60人です。本機構の理念を実現するため、講演会・シンポジウムの開催、そして、連携を行うためのシステム作りを継続的に行っています。



認知症と食 会場風景

■支援金をどのように活用されましたか？

今年度は「認知症」に関する市民公開シンポジウムを2回にわたって開催しました。具体的には、「認知症」を中心として二つのテーマで行いました。1回目は「認知症と食」（平成24年6月24日）というテーマで、2回目は「認知症と成年後見制度」（平成24年9月9日）というテーマで行いました。これら2回のシンポジウム開催のための費用の一部として支援金を活用しました。



認知症と成年後見制度 会場風景

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

認知症は、高齢者人口が増加し罹患者数が増える一方である今日、極めて関心の高いテーマです。

認知症に関するシンポジウム・講演会等は昨今頻繁に行われていますが、その内容の大半は疾病の症状、対応の仕方などが中心です。今回、我々は、認知症を別の観点から捉え、「食」、「成年後見制度」という二つの側面からスポットを当てました。食に関しては、食事内容、食事上の注意点等について、歯科医師、栄養士等他、多職種の方からご意見を頂き活発な討論を行いました。参加者の多くが認知症高齢者を介護しており、日常介護に役立つ内容であったと好評でした。成年後見制度に関しては、独居あるいは身寄りのない認知症高齢者が増加している今日、極めて重要な問題であり、今後この制度をどのように普及・活用していくかが課題となります。今回は医師・行政・弁護士等をシンポジストとして招き、今後の制度のあり方について討論を行いました。自分自身のこととして聞かれていた参加者もあり、また介護等の専門職の方も参加しており、極めて有意義であったと考えます。

■今後の活動の抱負について

平成22年度から一貫して「食」をテーマにシンポジウムを行っています。平成25年度は公募型支援事業として「食と健康に関するシンポジウム」を開催します。今回の内容の特徴は、実際に低塩分食・低カロリー食等を参加者に食べてもらって討論を行う、従来とは異なる参加型のシンポジウムです。その他にも独自の事業として、認知症公開講座、専門職向け講座、第2回ふなばし福祉まつり in イオンモール船橋等を行う予定です。

■問い合わせ先：事務局 鶴澤 龍一（うざわ りゅういち）

TEL：047-495-9559

E-mail：funabasi.fukusi.kikou@gmail.com

交通安全を市民に普及する交通安全広報・啓発活動事業

【支援金確定額：321,660円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月4日

■どのような活動をしている団体ですか？

交通安全対策のため、

- ・街頭における安全誘導指導並びに各種会合等における啓発活動（啓蒙品の配布やマジックの活用等で視聴覚に訴える）
- ・交通安全施設の設置、改善及び技術向上に関する調査研究
- ・交通安全功労者及び優良会員運転者の表彰
- ・警察、市等関係者との交通安全行事の協調等を行っています。



高校における自転車安全指導

■支援金をどのように活用されましたか？

- ・新入学児童に対するランドセルカバーの配布
- ・横断旗と横断旗入れ
- ・チラシ、リーフレット、ティッシュペーパー、サイクルリフレクター等の配布（啓発活動日については、毎月10日の「交通安全の日」、市内各小学校で開催される交通安全教室、各高校における自転車通学者に対する安全指導、春の交通安全期間中、各町会開催の祭り等の行事、各安全運動期間中の街頭における活動等で配布）



交通事故防止の為、各種行事に取り組んでいます

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

船橋東警察署管内では、

交通事故による死者数一前年比2人減の4人

人身事故発生件数一前年比191件減の587件

交通事故による負傷者数一前年比228人減の671人

と死者、人身事故ともに減少しており、指導員の地道な街頭活動や老人会での啓発活動等が、その一助になったものと認められる。

■今後の活動の抱負について

高齢者と自転車の関係する事故が本年も多発しており、関係機関と協力して、市内各小学校の自転車安全教室、各町会の老人会等の集会に合わせた安全教育に力を入れ、高齢者の交通安全防止に努めていきたい。また、各安全運動期間中は、特に見せる活動を実施していきたい。

■問い合わせ先：事務局 森本 宏明（もりもと ひろあき）
TEL：047-467-9088

交通安全を市民に普及する交通安全及び啓発活動

【支援金確定額：340,000円 支援率：43.55%】

記入日：平成25年（2013年）4月22日

■どのような活動をしている団体ですか？

交通事故防止のため、活動しているボランティア団体です。交通道德の普及と高揚を図り事故のない船橋市の実現を目指しています。主な活動として指導員による街頭活動、広報啓発、高齢者と子どもの事故防止対策として安全教室（自転車を含む）を実施している。



毎月10日の交通安全の日を行う
シートベルトキャンペーン
(船橋東交通安全協会と合同)

■支援金をどのように活用されましたか？

千葉県・船橋市・船橋警察署などの関係機関と協力し、平成24年度千葉県交通安全県民運動基本方針に沿って活動している。毎月10日の交通安全の日・交通安全教室・春秋の安全運動中のキャンペーン時におけるチラシ、啓発物を配布し安全意識付けに活用している。

市内各小学校の新入学児童に対するランドセルカバー、横断旗の配布。

年間を通じての安全運動期間中、街頭活動における啓発物やチラシ等の配布。

以上のとおり幅広く活用させていただいております。



1月に行われる駅伝大会の交通整理の状況
(船橋東交通安全協会と合同)

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

実施年度（平成24年）は残念ながら事故件数、死者数ともに増加するなど成果は見られなかったが、本活動を継続することにより事故件数、死者、負傷者は減少するものとの意識を持ち、引き続き継続します。

■今後の活動の抱負について

毎月10日でのシートベルトキャンペーンの継続、関係機関と協力し、安全教室の継続、自転車指導員の養成、また各支部が行う自治会の会合等を利用した、安全講話の実施等を通じ高齢者、子どもの事故防止に努めます。

■問い合わせ先：事務局 土屋 正義（つちや まさよし）

TEL：047-425-2102

いざ災害！！わが身わが命は自分でまもる

【申請金額：136,352 円 支援率：78.85%】

記入日：平成 25 年（2013 年）3 月 31 日

■どのような活動をしている団体ですか？

これから起きるであろう首都圏の大規模災害に備え、地域の方々への「いざという時の備え」として、防災手帳作りをしながらの自分自身の備え、心肺蘇生法・AEDの使い方を含めた応急手当法の指導、倒壊家屋からの救出、搬送法、ロープワーク。カードゲームを使った避難所運営の知識やいざという時の疑似体験。情報収集の仕方、家具の転倒防止法などを一緒に勉強をしながら、いざという時の地域での仲間づくりを行っています。当会主催の防災フェアを行って啓発に努めています。

主に公民館を使って活動を行っています。



マイタウン情報収集ゲーム（三田公民館）

■支援金をどのように活用されましたか？

心肺蘇生法で使用する人工呼吸のマスク、ロープワークのロープ、段ボールトイレ作成の資料、カードゲームで使用するカード等の補充に大部分を充てています。そして、毎回講座にて使用する配布資料の印刷、製本の費用、研修に来ていただいた講師への謝金や会議室、公民館などの施設使用料にも支援金を活用しています。



厚生労働大臣よりの感謝状授与

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

東日本大震災の被災者支援等に対して、平成 25 年 3 月 11 日付けにて厚生労働大臣より感謝状をいただき、藤代船橋市長より授与していただきました。

少しずつ名前を覚えていただけるようになり、各地の公民館、町会、地区社協などより講習会の依頼が増えてきています。

■今後の活動の抱負について

これからも、市民の皆様に対して、いざという時にどう身を守るか、地域に対しどのような支援ができるのか。避難所の立上・運営の方法、災害ボランティアセンターの立上運営の方法などをできるだけ広げ、浸透させていきたいと考えています。

いざという時に手をつなぎ復旧、復興を進める仲間として活動できるようになって行きたいと思えます。

■問い合わせ先：代表 片桐 卓（かたぎり たかし）

TEL：047-474-7685

E-mail：katagiri-sl@silk.ocn.ne.jp

公道走行に於ける自転車安全マナー実践教室開催

【支援金確定額：141,313円 支援率：50%】

記入日：平成25年(2013年)3月27日

■どのような活動をしている団体ですか？

自転車安全運転教室を開催しているボランティア団体。

地域より自転車事故撲滅を目指す為、大穴南・北の中間点では学校が休日でない限り、毎朝・夕の2回交通指導をしている。歩行・自転車も出来る限り声を掛け注意を促している。



自転車のルールとマナーの説明

■支援金をどのように活用されましたか？

自転車安全運転教室開催に於ける案内チラシ、会議、写真代、印刷トナー代などや、自転車の反射材シールの作成や購入費用に利用。

今年度は、地域の事業が多く子供と学校を含めて4回の自転車教室を開催。小さい町会の依頼が一度(高齢者のみ)。



公道における安全確認指導

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

平成25年3月24日を第12回目として開催。地域の男女高齢者が徐々にボランティア活動を認め、公道に於ける交差点での安全確認等に参加し、一段と自転車安全運転の気運も高まり、父兄、高齢者の自転車教室への参加者が増えた。地域の町会、自治会等も協力する様子が伺えてきた。警察関係も県警本部より声援がある。(関係者を含め100名近い方々が毎回活動される様になる。)

■今後の活動の抱負について

毎回、公道に於ける安全確認支援者も50名~70名位が協力して戴ける様になり、自転車教室での安全性については楽になってきた。少子化の中、スポーツをする子供が多く、練習時は参加を呼びかけているが父兄の考えは「一度参加すれば良い」の考えが強く、教育委員会や学校の体勢体制も必要。船橋東警察署より常時3名の警察官が出席。交通課長には、自転車のルールとマナーの説明や基本的な話しをして戴き、終了後は係長に総括指導をして戴いている。

今後、全域で起きると思われる事として個人的な私の意見だが「自転車への当り屋」が出て来る様な気がする。昔は「車」への当り屋があったが、当たる方も危険だったが自転車だと比較的危険度は低い。しかし事故になれば「健康保険証」は使用できず医療費も打撲程度でも数万円は必要になる。

警察に報告しないで当事者同士で対処すると月にしても大きな金額となるので、船橋市としてもこうした事件のない様、市民全員に促して欲しい。私は、毎回参加者には話している。

■問い合わせ先：代表 中込 正次 (なかごめ しょうじ)

TEL：047-465-3820

平和啓発事業

【支援金確定額：67,743円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

世界の恒久平和を願い、核兵器の廃絶を目指し、市民への啓発活動を行う事を目的として、

- ◇広島市の被爆者が描いた「原爆の絵」30点を広島平和記念資料館から借用して展示会
- ◇船橋市視聴覚センターが保管する平和関連の映画（フィルム、ビデオ、DVD）や他からもこれに類するものを借用して上映会
- ◇東京大空襲写真展、紙しばい、折り鶴作成等船橋市役所ロビー、勤労市民センター、三山市民センター、各公民館にて、7月から8月にかけて開催。平成24年で27年目になります。
又、広島平和記念館に市民を派遣しています。



被爆者が描いた絵を食い入る様に見入る
船橋市役所ロビー

■支援金をどのように活用されましたか？

平成24年度事業実績額は次の通りです。

| | |
|-----------------|---------|
| 紙しばい講師謝礼 | 5,000円 |
| 会場設営、装飾 | 5,561円 |
| チラシ印刷、アンケート集発行 | 50,500円 |
| 原爆の絵搬送費、切手、メール便 | 51,810円 |
| 会場施設使用料 | 24,615円 |

この種行事への参加・協力を得るべく力を注いでいるのが「チラシ」による宣伝活動で、会員、協力者、知人、友人等に郵送等をもって送付し、配布するようにしています。それが事業運営の活動面の一番の要であり、且つ、財政面の最大の課題なので、財政基盤の実績を踏まえ、支援金の大半をそれに活用しています。



紙しばい上演
船橋勤労市民センターギャラリー

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

市民活動支援審査会での意見「市が行う平和事業との連携性、公益性」にもとづき、平成24年、初めてとなる学校関係での原爆の絵展を市内御滝中学校にて行う事が出来、併せて実施したアンケートでは11名の生徒さんから重量感のある文言を頂き、活動に取り組む上で大きな力を与えられました。支援事業に選考されたことによって、今日まで26年間、ほぼ同じ内容を繰り返す様な形で行ってきた、所謂、マンネリ化と云われても致し方ない状況を反省・改善する機会となりました。

支援事業公開ヒアリングや事業報告会への参加、実施事業事例集への掲載等による市民、各界との面識交流の機会を与えて頂いた事は事業運営上、大きな励みになりました。

■今後の活動の抱負について

これからも原爆の絵展を軸とした事業を展開していきますが、この事業を担っている中心メンバーに若い世代が少なく、当初から継続しているメンバーは20年以上になりますから高齢化し、体力的な面で厳しくなってきたので、どう克服するかが課題、目標であり、若い世代に加わってもらう様、引き続き努力していきます。

これまで通り、「原爆の絵展」、「映画上映」を中心に活動を7月から8月の2ヶ月間に集中して、市内各所に取り組んでいく予定です。平成24年、初めて実施した学校での原爆の絵展をこれからも続けられる様に努力していくつもりです。

■問い合わせ先：事務局 春田 実章（はるた さねあき）

TEL：047-449-2725

0・2歳児親子遊び事業「どんぐり会」「ジーバー会」

【支援金確定額：892,164円 支援率：42.42%】

記入日：平成25年（2013年）3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

地域に住む子育てを終えた女性達が、地域の乳児親子を対象に、0歳児親子遊び「どんぐり会」と2歳児親子遊び「ジーバー会」を運営しています。始めてから18年が経ち、約2,700組の親子たちが遊びました。

遊びは、おもちゃ遊び、わらべうた、ミニ文学、親子体操などで、母親達は育児相談や、互いに情報交換、友達作りなどを楽しんでいます。

今年度は、永年の夢だった「妊婦教室」を始めました。赤ちゃんがいない出産前に、親子の遊び方を十分に学んで、出産後に赤ちゃんとうちに遊びます。



講義風景

■支援金をどのように活用されましたか？

0歳児「どんぐり会」は、船橋アリーナと坪井公民館の和室で、15組の親子と保育士2名が、毎週1時間、年間38回、2クラスが遊んでいます。2歳児「ジーバー会」は、船橋アリーナの多目的室で、20組の親子と保育士2名が、毎週1時間15分、年間38回、4クラスが遊んでいます。

2歳児の2クラスでは、次年度幼稚園や保育園にあがる子どもたちのために、最後の3か月間、20分間、親から離れて、子どもたちだけで遊ぶ時間を設けています。活動は会費で運営されますが、支援金を受けて会費は半額の300円です。

事業費の約6割が保育士の報償費、約2割が会場、駐車場、倉庫の使用料、残りがその他となっています。



クマのぬいぐるみを
赤ちゃんに見立てて遊びます

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

2歳児の「子ども遊び」クラスでは、最後の3か月間、子は親から離れて遊ぶので、一段と成長して幼稚園や保育園に行きました。また、自分の名前をグループ名で呼ばれて、言葉の概念が広がりました。

おもちゃ遊びには、年齢別に四つの段階の遊び方があります。0歳児は、親がおもちゃを一つずつ手渡しして、根気と共感を育てます。1歳児は出来なかった時に、親は2秒だけ手を添えて達成感を味わわせます。2歳児は、親が子を真似て遊び、2歳児の自発性と共感を育てます。3歳児は、親子で対等に遊びます。「妊婦教室」で、これらの遊び方を詳しく学ぶので、出産後に親子はより上手に遊べるようになります。対等な遊び方は対等な人間関係に結びつきます。

■今後の活動の抱負について

0・2歳児親子遊びは、水曜日と木曜日に5クラスを実施します。お友達を誘って参加してください。年度の9月と翌2月に募集します。

「妊婦教室」全3回は、4か月毎に年3回実施します。始めたばかりなので、募集に力を入れます。妊婦達は、まだ仕事をしている時期なので、町会の掲示板にポスターを貼らせてもらえると助かります。

平成25年度は企業の助成金を利用しました。資金を得るためには、寄付体制作りが必要です。0・2歳児親子遊びで過去18年間に遊んだ2,700名に、寄付の呼びかけをしていきます。

■問い合わせ先：代表 中村 三和子（なかむら みわこ）

TEL：047-466-3375

E-mail：kasinoki@ac.auone-net.jp

市民と育む海老川うるおい創生活動

【支援金確定額：845,450円 支援率：44.37%】

記入日：平成25年（2013年）3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋市を流れる海老川は市民に昔より馴染みの生活の動線として親しまれています。しかしながら急激な都市の膨張は海老川を氾濫による悪臭を放つ泥川と化してしまいました。そこで私たちは「海老川」の環境づくりを目的に市民の意識の醸成を図りながら環境汚染に対する対策と啓発活動を継続実施してきました。その活動の一つが、市民が海老川に親しみと潤いを感じ、愛護意識を高めるための「海老川親水市民祭り」です。2つ目に秋の「福像めぐり」海老川の生態系を保全するため14体の像をめぐる、市民の健康と自然に向かって歩け歩けの大会です。ほか月1で海老川河川清掃自然観察を実施、年2回広報紙作り、海老川の草花のマップ等を作成、子供たちの環境学習に役立っています。



親水市民祭りより「水はきれいに美しく」
子供たちのドジョウの放流

■支援金をどのように活用されましたか？

イベント開催時の諸経費（イベント用チラシ4万枚他活動啓発ちらしポスター、通信費、会議室使用料、設備費、備品借料、景品など）等に活用しています。特に「親水市民まつり」は年々参加者も多くなり、少しでも多くの市民に活動を理解頂く最大の事業として市民に支援金活用を還元しました。（フリマ出店においては風評被害を拡大しないよう地産地消に心懸ける様啓発に力を入れるための諸経費、又、子供たちの健全育成のため、子供たちも楽しんで参加できるよう海老川マップ2を発行、絵画写生会とコンクールを実施。市長賞、教育長賞、議長賞と海老川の水に対する力作が出揃いました。これらの粗品等に活用しました。）



子供たちの体験コーナー

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

河川管理者の県、市との連携と市民の協力により家庭雑排水の改良は海老川の河川汚濁の軽減につながり水の流量も増え、まさに良向な現況となりました。また月1の定期パトロールは市民の更なる意識啓発につながり昔のように、河川に汚物を捨てる行為も少なくなったと、感じます。岸辺で釣りをしている子供たちの姿もみられ、渡り鳥も飛来するなど潤いある川風景がみられ、良好な河川環境が維持出来ていると感じています。

■今後の活動の抱負について

まず、海老川に関する活動を継続進めます。「呼び戻そう故郷の自然を」「水はきれいに美しく」「市民みんなが主役です」は会創設以来のテーマです、海老川が昔のようなきれいな河川環境に戻り、水辺で子供たちが楽しめるような、満足できる状況になるまで此の2大イベントを継続させていきたい。その環を船橋に定着させ防災意識も視野に街おこしとなり、昔馴染んだ自然の川の素晴らしさを市民一人ひとりに甦らせ、次世代にと繋げて行ければと思います。

■問い合わせ先：事務局長 菊地 けい子（きくち けいこ）

TEL：047-465-7790

囲碁交流による健全な児童、健全な家庭、潤いのある地域社会づくり事業

【支援金確定額：114,680円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月26日

■どのような活動をしている団体ですか？

囲碁は考える力、集中力を培う最高の知的ゲームであると同時に対局マナーを通じ、躰教育、人間教育にも大変有効なものです。当会はこの囲碁の普及、交流を通じて「健全な児童の育成」「潤いのある家庭づくり」「健全な地域社会づくり」を目指して活動しています。具体的には幼稚園、小中学校、児童ホーム、公民館等で子ども囲碁教室を開催し親子対戦等による家族間のコミュニケーションの促進を、地域イベントでは地域の仲間を巻き込んだ交流の場作りを行っています。



幼稚園での囲碁大会風景

■支援金をどのように活用されましたか？

年間を通じ、30数箇所、900名を超える児童の指導を行っており、支援金の多くはその教材費として活用しています。あまり囲碁経験の無い子どもたちを指導する場合にはルールを教えるだけでなく、興味を持たせる工夫が大事と考えており、紙製の9路碁盤等を使用しています。これは自宅に持ち帰って親子対戦等家族でも楽しめるよう配慮したものです。



小学校での子どもたちの対局風景

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

1) 子どもたちは伝統文化である囲碁の面白さ、知的刺激を十分に楽しむと共に躰やマナー、思いやりの心等を自然に身につけています。

2) 囲碁教室や家庭での親子対戦、或いは親子協同での囲碁問題への取り組み等を通じた家庭内コミュニケーションの促進、或いは潤いのある家庭作りを、また各種少年少女囲碁大会への参加呼びかけ、幼稚園での敬老囲碁大会や公民館での文化祭行事の一環としての囲碁大会等の各種イベントへの参加等を通じ、地域との絆作りにつながっています。

■今後の活動の抱負について

囲碁をより一層普及させるため、幼稚園、小学校、公民館等との協同の下、囲碁教室の開催等指導の場を増やすと共に、子どもたちの励みとなるよう囲碁大会の開催をもっと増やしていきたいと考えています。

■問い合わせ先：事務局長 飯田 正男（いいた まさお）

TEL：090-1657-2281

お問い合わせ：船橋市 市民生活部 市民協働課
〒273-8501 船橋市湊町2-10-25
TEL：047-436-3201
E-mail：shiminkyodo@city.funabashi.lg.jp